

第 12 回岩手県スポーツ推進審議会議事録

日時：平成 29 年 7 月 13 日（木）10：00～

場所：岩手県庁 12 階 特別会議室

出席者

○スポーツ推進審議会委員

古舘英彦委員 平藤 淳委員 清川義彦委員 照井大道委員 菊池幸子委員
高橋敦子委員 上濱龍也委員 菅 義行委員 早野みさき委員 鈴木美智代委員
土信田有紀委員

○岩手県文化スポーツ部

上田文化スポーツ部長
文化スポーツ企画室 畠山企画課長 臼井主任主査
ラグビーワールドカップ推進課 松崎総務企画担当課長
スポーツ振興課 工藤総括課長 谷藤首席スポーツ振興専門員兼競技スポーツ担当課長
星野生涯スポーツ担当課長 粒来主任主査 中島上席スポーツ振興専門員
森山上席スポーツ振興専門員 小田中上席スポーツ振興専門員 神久保主査

○岩手県教育委員会

保健体育課 荒木田総括課長 渡辺保健体育担当課長 菊池主任指導主事 川村主査

（工藤総括課長）

本日は、委員 13 名中、過半数となる 10 名の出席ですので、「岩手県スポーツ推進審議会条例第 4 条第 2 項」の規定により、本会議が成立していることを報告します。

なお、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、本日の会議は全て公開となりますので、予め承知くださいますようお願いいたします。

（菊池委員到着、着席）

1 開会

（工藤総括課長）

只今より、第 12 回岩手県スポーツ推進審議会を開催します。

はじめに、上田文化スポーツ部長から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

（上田文化スポーツ部長）

本日は、お忙しいところ、御出席いただきましてありがとうございます。4 月からできました、文化スポーツ部の初代部長となります、上田と申します。よろしくお願いたします。

第 12 回岩手県スポーツ推進審議会の開会に当たりまして御挨拶申し上げます。

委員の皆様には、お忙しい中本審議会に御出席をいただきまして、心より御礼を申し上げます。

さて、昨年開催されました「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」では本県選手団が素晴ら

しい成績を収めますとともに、全国の皆様から評価をいただいた文化芸術や県民のおもてなしの心、大会の成功を通じて得られた県民の自信や参画意識の高まりを、次の世代に繋いでいくべき貴重なレガシーが培われたという風に考えております。

県では、こうしたレガシーを継承し文化スポーツのパワーによりまして県民一人ひとりの個性が輝き、創造性が発揮される地域づくりを進めるために、この3月に「岩手県文化・スポーツ振興戦略」を策定しました。4月には専担組織として「文化スポーツ部」を設置し、文化・スポーツ面に関する事務を知事部局に一元させてもらいました。そのことで、本審議会も当部の所管となることとなりました。

今後でございますが、ラグビーワールドカップ2019™釜石開催が再来年に控えております。その成功に向けて取り組みますことに、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず県民一人がより身近にスポーツを楽しむことができる環境を整備してまいります。更に、競技力の向上、障がい者を含むトップアスリートの方々の育成などによりまして、スポーツの魅力を実感し、そして県民の心と体が元気になるそういったスポーツ振興を推進してまいります。

委員の皆様には、本県スポーツ振興に関しまして幅広い見地から御意見あるいは御助言を頂戴賜りますようよろしくお願いいたします。

結びでございますが、今後ともそれぞれのお立場から、本県スポーツ振興に向けた取組が一層図られますよう、皆様の御支援をお願い申し上げまして開会に当たっての御挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 委員紹介

(工藤総括課長)

それでは新任の委員を御紹介いたします。

本日付で就任されました公益財団法人岩手県体育協会副会長兼理事長の平藤淳委員でございます。任期は同じく平成30年6月22日となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

続いて県側の主な職員を紹介します。(上田部長、谷藤担当課長、星野担当課長、畠山企画課長、松崎担当課長、県教委保健体育課荒木田総括課長、渡辺保健体育担当課長)

その他の職員については、紹介を省略させていただきます。

上田部長は次の業務のためここで退席させていただきます。

4 会長選出

(工藤総括課長)

続いて、会長であった高橋委員が辞任したことに伴いまして会長が欠けている状況でございますので、会長の選出を行います。「岩手県スポーツ推進審議会条例第3条第3項」により昨年7月開催の第10回審議会で指名されている会長職務代理者の上濱委員に進行をお願いしたいと思います。

(上濱委員)

それでは会長の選出につきまして、「岩手県スポーツ推進審議会条例第3条第1項」におきまして、「審議会に会長をおき、委員の互選とする」とされておりますが、いかが致しましょうか。

事務局案をお示ししてよろしいでしょうか。

(異議なし)

(工藤総括課長)

事務局案は、会長に県体育協会副会長兼理事長の平藤淳委員にお願いしたいと考えております。

(上濱委員)

今ご提案いただきました事務局案につきまして、そのとおりとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、御異議ないようですので、会長を平藤淳委員にお願いします。

(工藤総括課長)

上濱委員ありがとうございました。上濱委員は元の席にお戻り願います。平藤淳委員は会長席にお願いいたします。

5 会長挨拶

(工藤総括課長)

続きまして、平藤淳会長より御挨拶をお願いいたします。

(平藤淳会長)

ただいま、選出していただきました、平藤と申します。委員の皆様のお力をお借りしながら、国体・大会の次の年という新たなスタートの年からの様々なことを振興させていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

(工藤総括課長)

ありがとうございました。

これより先の議事につきましては、平藤会長に進行をお願いいたします。

6 議事録署名人選出

(平藤議長)

それでは、次第に従いまして、進行させていただきます。

次第6の議事録署名人の指名でございますが、清川義彦委員と、高橋敦子委員にお願いしたいと考えていますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

7 議題

(平藤議長)

それでは次第7の議事に入ります。

(1) 岩手県文化・スポーツ振興戦略について、事務局から説明をお願いします。

(1) 岩手県文化・スポーツ振興戦略について

(星野担当課長)

資料により説明

(平藤議長)

ただ今の事務局の説明に関して、質問等ありませんか。

これは、前回お示ししたものと大きく変更した点はありますか。全く同じですか。

(星野担当課長)

はい、同じです。

(平藤議長)

只今の説明に対し、質問等ございますか。

前回の内容と同じものであるということでしたけれど、それを踏まえてもご質問があればということですが。ご意見でも構いませんが。

7ページの下の第4章の推進体制の「仮称」は取れていいですね。

(星野担当課長)

戦略ができた3月に作成したもののなので、「仮称」は取れます。

(平藤議長)

このとおりの組織ができたということですのでよろしくお願いします。

続きまして、(2)岩手県民計画「第3期アクションプラン」に係る進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

(2)岩手県民計画「第3期アクションプラン」に係る進捗状況について

(荒木田総括課長、星野担当課長、谷藤担当課長)

資料により説明

(平藤議長)

ただ今の事務局の説明について、質問や御意見はありませんか。

(菅 委員)

30ページの指標の体力と肥満の関係について御質問させていただきます。ここで見ると、体力と肥満という2つの枠の形になっているのですが、体力と肥満の関係がどうなっているかという統計は出るのでしょうか。体力がいい子は肥満ではないということや、肥満の子は体力が落ちるだろうということはわかりますが、統計的なものが出るのかということと、岩手県は肥満の子が多いですが、地域的な状況における問題などはいかがでしょうか。

(荒木田総括課長)

体力と肥満の相互関係や、リンクさせている統計は私どもでは出しておりません。地域別では県北の方が肥満の傾向が高いと出ております。体力については、沿岸の子供たちの体力が震災前は内陸部より上でしたが、震災があってグラウンドに仮設住宅ができ、運動が制限されたことに

よって沿岸の子供たちの体力が下がったということは統計的には出ております。最近の新聞報道にも出ておりますが、高田では本年度内に仮設住宅を撤去するという取り組みもされていますので、沿岸部では震災前の体力に近づきつつあるという状況でございます。

(菅 委員)

相関関係を見ることによって、もっと指標とか対策が出るのではないかと、ということが1点と、もうひとつお願いがありまして、去年から始まった運動器検診というものがありまして、運動機能不全、しゃがめないとかバランスが悪い子とか、そういった子どもたちの体力・肥満などの関係をモデル地域などで見ることによって、対策などが今後できるのではないのでしょうか。特に私は、運動器検診で県内を動いていますが、ただ肥満だからどうだという結果だけではなく、相関関係をみることによって、もう少し具体的な対策が出るのではないかと感じておりますが、いかがでしょうか。

(荒木田総括課長)

ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。

(菅 委員)

34 ページに直接出ているわけではありませんが、総合型地域スポーツクラブの会員数や岩手県スポーツ推進委員研修会の参加率についてありますが、ここに関連してお願いがあります。北上市から委託されて体協などが「もっと元気教室」をやっているのですが、実際大変なのは何かというと、指導員に健康運動指導士の資格をやっと取ってもらったけれど質が高まっていないということです。レベルアップしていくような物事を県でサポートしていかないと、ただお金を出してやれというように物事が動いているような感じが、障がい者スポーツや介護の部分であります。スポーツなのか介護なのかミックスするところがあるかもしれません。

また、地域によって交通タウンの過疎化によって、人を集めるのにすごく大変な状況もあります。そういう状況の中でこれまでと同じ金で物事をやれというのは、実際、北上市でスポーツか運動をさせる物事によって、すごく問題があると感じているところがあります。スポーツクラブの会員数など大変結構ですけど、レベルアップをする対応をしていくことと、お金は一括で交通費などを加えたものではなく、結構体協などでは大変なところもあって、そういう検討もしていかないと、実際の活動のレベルがなかなか上がっていかないと感じます。

(星野担当課長)

色々な指導者養成事業がありますけれども、私共も色々競技団体などに補助金を出したり、協会に委託をしながら指導者養成を図っているところがあります。ただ、その資格を取っていただいてからのフォローアップというところが、少し弱いのではないかとこのところは認識として持っております。取らせっぱなしというところも否定できないかと思っておりますので、その辺りのレベルアップ、フォローアップ研修みたいなのも検討していく必要があると認識を持っています。お金の関係ですが、総合型クラブは今 t o t o の助成を受けながら活動しているところが多いですが、そういった助成が途切れてきた時に、本来であれば会員の方々からの会費で自主的に運営していくということが基本なのですが、中々そこまでのスポーツの普及度になってきていません。自らお金を出してスポーツをするということがうまくクラブ運営に反映されておらず、それは風

士なのか、これから取り組んでいかなければならないと認識しております。ですので、お金がないのにそういうところにしわ寄せがきているのだらうというところで、財源の確保や運営の活性化について、広域スポーツセンターに指導員を配置して、色々と支援させていただければと思います。また更には、これから各クラブの現状をまず加えなければならぬと思いますので、そういうところも聞き取りをしながら考えていきたいと思っています。

(菅 委員)

ぜひ、岩手県は教育委員会で医・科学などで地域のバックアップを充実させ、県から地域を指導していき、地域がまた上がっていくようなシステムを作って、全国でも珍しい貴重な組織だったものが、文化スポーツ部に移られたという話も聞いておりましたので、そういう活動で県内がもう少し盛り上がっていくことをお願いしたいと思っています。

(谷藤担当課長)

ご意見ありがとうございます。今、委員からお話がありました通り、医・科学の専門のスタッフが私たちの職場におりまして、去年までは国体に向けてのサポートが中心になっていましたけれど、今年からは健康づくり支援事業というものをスタートさせていただいております。市町村や市町村体協、総合型クラブや学校のPTA関係などからの要望に応じて、講師等を派遣する事業をスタートしておりますので、これからも周知をさせていただきたいと思っています。

(平藤議長)

今の件に関して推進委員や、総合型についてお話がありましたが、それぞれのお立場から何か補足することがありましたらお願いします。

(鈴木委員)

私は総合型地域スポーツクラブということでこの委員に加えていただいたので、星野担当課長に私以上にしっかり把握していただいていたので、とても心強く説明を聞いていたのですが、やはり県で分析して頂いたとおり、総合型クラブは今30市町村にはありますが、スポーツ振興くじt o t oの助成金を受けているところが大半です。そして東北に関しては被災地ということで、プラス5年間多く頂ける対象にはなっていたのですが、それがもう期限切れで各クラブ独立して運営していきなさいという岐路の時点でございます。その中でやはり自立していく為には、県民の方がスポーツをするのにお金を払うという受益者負担の意識がやはり低いですね。へたをすれば、田舎のほうでは「運動会に来たら参加賞くれるでしょ」というような物をもらいに行くきっかけみたいな感じに考えている方もいます。それが悪いわけではないですが、そういう方にいかに健康になることや、スポーツをすることの価値としてお金を出していただくかというところに、どのクラブも四苦八苦しています。ただクラブは運営していかなければいけないので、みなさんとクラブ後に話し合っているのは、行政とタッグを組んで取り組むということです。目指すところは、地域の皆さんに健康で豊かな生活を送っていただきたいというところは同じなので、図々しいですが、健康に対する課題に、私たちクラブが一緒に取り組みましょうという形で業務委託を受けるクラブさんがどんどん増えてきています。その収入をもってクラブ運営をしているところもあります。指導というのは、指導されている方は分かるかと思うのですが、資格を取得してから先なので、色々な方と交流し指導していく中で質も高まってくると思うのですね。資格だけ

持っていればいいわけではなく、どう生かすかというところなので、そういった意味でも委託事業を受けていることはクラブにとっても良いことだと、お互いレベルアップしていけるものだと思います。

併せてですね、スポーツ庁発信で日本体育協会がおそらく認定者になると思うのですが、これから総合型スポーツクラブも認定制度を設けようと動いています。おそらく東京オリンピックが始まる前にはこの制度が確立されていくと思います。というのは、総合型スポーツクラブに「そういう人材がいますよ」と言っても他の団体からすると、「総合型って何」とか「NPOって信用できるの」という声があります。それに対して、「ここはスポーツ庁・日体協が認めた正式なクラブですよ」というような、どういう形でAなのかBなのか、1か2か、優か良か分かりませんが、クラブに対しての認定が行われ、「そこであれば信用して委託しても良いですよ」というような制度が整っていくという流れで今ありますので、ひとつ情報提供ということでそういった動きがありますということをご案内させていただきます。

(平藤議長)

ありがとうございます。菊池委員は何かありませんか。

(菊池委員)

34 ページですが、岩手県スポーツ推進委員研修会参加率について 29.3%ということで、27 年度もそうですが、思ったより少ないなと思います。スポーツ推進委員になるのですが、みなさん仕事に行きながらのスポーツ推進委員なので、研修会は色々ありますが仕事優先で参加率が中々少ないです。私は、自分の地元で引き受けた以上はなるべく出るようにしてくださいと言うのですが、仕事と言われるとこちらもきつくは言えないので参加率も中々難しいです。県内外で研修会をやると、例えば奥州市ですが、奥州市から県北のほうに行くとなると、時間的にも距離的にも遠いので中々参加率も少ないですし、かといって中央で行っても仕事、仕事で。土日でも地元で色々なスポーツ行事があって、そこにスポーツ推進委員が出る場が多いのですが、研修も少ないという形です。

ちょうど7月7日、8日に東北地区スポーツ推進委員研修会を北上市で行ったのですが、ボランティアが少なく、スポーツ推進委員の参加率も少なく大変でした。委員になった以上は色々な研修に出てほしいと強く言っているのですが、皆さんにも月に1回ニュースポーツの教室ということでやっていましたが、参加するのもスポーツ推進委員だけということも何回もありました。まだまだ皆さんにスポーツの浸透が足りないのかなと思いますし、逆にシルバー高齢者の方たちのほうが自分の健康づくりで、スポーツ・健康づくりは70%~80%いっているのではないかと思います。もう少し若い人たちの運動をどうにかしていきたいと考えているのですが、どうしたらいいでしょうか。

(星野担当課長)

私も先週の金土と東北大会に2日間対応させていただきましたが、スポーツ推進委員の方々に申し訳ないですけど確かに高齢化で、若い方も少しおられますが、やはり底上げが必要だと感じております。本当に、若い方のスポーツへの取り組みというのは、大きな課題と捉えておりますので、グルージャさんやビックブルズさんとかでスポーツ教室をたくさんやっていきながら、そ

ういったサポーターだったり、応援だったり、自らするという事に繋げていく機運醸成だったり、間近にラグビーワールドカップもオリンピックも控えていますので、そういうところを私共もチャンスと捉えていますので、どんどん色々な仕掛けをしながら、スポーツツーリズムやそういうものを考えていきながら、するスポーツから指導するスポーツというふうに繋げていければなと思っております。新しい部になりましたので、ご期待に応えるよう頑張っていきたいと思っております。

(平藤議長)

ありがとうございます。他には何かございますか。

(高橋委員)

31 ページの「60 運動」ということで、今年度も学校にプリントを配っていただきました。前年度に比べると、前年度はわんこきょうだいが一面に連なっていて、たくさん何十という枠があったのですが、それからするととても大きく変わっていて、一週間の取り組みが三回という形に大きく変更してありました。個人的にはすごく取り組みやすいなと思っているのですが、今後もそういう形に変更していくのかどうかということ、運動の捉え方が変わったような感じがしました。去年までは、体育以外の運動となるとなかなか子供たちも、「スポ少に入っている人が運動している」みたいな感じで、そうすると「僕は運動していない」という子が多くて二極化が大きかったのですが、今年度は学校の行き帰りの歩きも運動に入っているよ、とか掃除とか。あとは、これは去年からでしょうか、休み時間遊ぶことも運動だよってということで、今週からうちの学校では取り組み始めたのですが、とても「僕はすごい、100 分以上運動しているんだ」というふうに、去年と違って自分が運動をしていることを実感するようなプリントに変わったように思います。これから先、今のような形でやっていくのかどうかお尋ねしたいと思います。

(荒木田総括課長)

記録する様式につきましては、皆様のご意見を聞きながらいい物に変えていきたいと思えますし、60 運動の取組も高橋委員がお話されましたように、スポーツに限らない、広く言えば身体活動ですけど、動いていることは全て 60 運動というような形です。実は私も 4 月から課長になったので、これは取組まなければならないということで、自分もやってみましたら、結構動いているなという実感ができました。更に、やってみようかなという意欲にも繋がりますので、是非日記のような感じで付けていけると子どもたちの励みにもなるのかなと思います。いいことは続けていきたいと思えます。

(高橋委員)

とてもいい取組に変わってきて、子どもたちも自分が「結構運動しているんだ」ということで実感しています。さっきの話を聞くと、小さい頃から親しまないと運動は中々続かないものですので、もっと 60 運動が浸透するように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

(平藤議長)

ありがとうございます。では、菊池委員。

(菊池委員)

今のお話で60運動ですが、先月地元の小学校の全体親子レクに、60運動の説明をしながらちょっとスポーツをやってください、ということで小学校に行ったのですが、ちょうどその時にお母さんお父さん達が「運動はしていない。」と。でも60運動の中には、「掃除をしている、学校の帰りの歩き方、色々そういうものも60運動に入りますよ。」ということの説明したら、お母さん、お父さん達も「家事も運動なんだね。」ということを書いていただきました。「万歩計を付けて家の中で家事をやってみてください。」とよくお母さん達に言うのですが、実は結構動いているんだということで、「全然運動はしていません」ではなくて、60運動の中にある「お掃除している、買い物に行っている、買い物に行っても歩いていますので、結構な運動になると思います。」と、説明したら、お母さんお父さん達にも結構運動していると理解していただいたので、60運動はいいことだなと思っていました。ありがとうございます。

(鈴木委員)

付随するようですが、私も実は60運動を県南の一関南小学校というところでプレリーダーとして関わることになったのですが、お二人の話を聞いてまさにその通りで、スポーツや運動の捉え方のハードルを下げる、一般の人が動いてもらいやすいように、プロスポーツだけでなく、生涯スポーツを進めていく上で、気軽にというところが外せないのも、その持って行きかたがとてもいいなと私も感じています。あと、今回見せてもらったのは60運動の終了後のアンケートに、体力レベルの数値化の他に、楽しかったとか精神的な評価票も付いていて、やはり心と体は一緒なので、この記録だけの数値ではなく、どう感じたかというのも是非データに積み重ねていただけたら嬉しいかと思います。

(平藤議長)

他ありますか。では、先に進んで後でまたありましたらお願いします。

それでは、(3)のラグビーワールドカップ2019釜石にかかる現在の状況について、事務局からお願いします。

(3) ラグビーワールドカップ2019 釜石にかかる現在の状況について

(松崎担当課長)

資料により説明

(平藤議長)

ただ今の事務局の説明に対して、質問やご意見はありませんか。

推進課というのが新しくできているということですね。

(松崎担当課長)

はい、4月からできました。

(平藤議長)

それで、専任でやっているということですね。わかりました。

次に(4)の国民体育大会冬季大会及び岩手県障がい者スポーツ大会の結果について、事務局より説明をお願いします。

(4) 国民体育大会冬季大会及び岩手県障がい者スポーツ大会の結果について

(谷藤担当課長、星野担当課長)

資料により説明

(平藤議長)

ただ今の説明に対して、ご質問等ございませんか。

(質問なし)

(平藤議長)

議題の(5)「その他」に関してですが、皆様から何かございますか。

(なし)

事務局から何かございますか。

(なし)

それでは、以上で議題を終了させていただきます。これで、議長の責を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

8 その他

(工藤総括課長)

平藤会長、ありがとうございました。最後、8「その他」ですが、委員の皆様方から何かございますか。

(鈴木委員)

議題に関わることもかもしれませんが、実はこの夏にうちの指定管理者の施設をメイン会場で小学校の水泳記録会があるのですが、様子を聞いたところ、安全性への配慮で飛び込みをしない記録会に変わったというお話でした。私個人的に水泳も教えているのですが、確かに飛び込みを教えるという指導の先生たちの大変さはよく分かっていますが、色々考えられて決定したことだと思いますが、できないからやらないのでいいのかなと思う自分と、そういうものに対して何らかの周りの環境でできるようにしてあげる工夫はないのかなってというような気持ちで、もやもやした感じなんです。こういう現状が岩手県の片田舎で起きているところを踏まえた上で、何か工夫があれば嬉しいなということでもひとつ言わせていただきます。もうひとつだけ聞きたいのですが、先ほどの話の中で年間全くスポーツを実施しない人の割合が横ばいという報告だったのですが、何が原因というデータはありますか？時間であったり、嫌いだからとか、何でも良いのでそこが一番知りたいです。

(星野担当課長)

実施したか実施しないかの調査でして、何で実施しなかったのかというところまでの調査にはなっていなかったもので、データを持ち合わせていないです。

(鈴木委員)

ではすみません、次回のはきは、時間でも好き嫌いでも良いので選択肢があるとすごく助かります。

(荒木田総括課長)

飛び込みについてですが、学習指導要領がございまして、それに基づいて授業を行うのですが、小中学校につきましては、水中からのスタートということになっておりますので、競技会については、スイミングに通っている子どもたちは飛び込みができるのですが、そうでない子供たちも出場するわけでありまして、安全性を最優先しての競技会ということで御理解いただければと思います。

(工藤総括課長)

他にございますか。

(なし)

9 閉会

(工藤総括課長)

長時間にわたりお疲れ様でした。以上を持ちまして、本日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。